

種貞作
曲貞画

保部

九編下



由縁

足

九編上

新題曲貞画



由
足
録



九編上

新題曲豆園五



其由縁鄙俚 第九篇 上冊

若菜の上

柳下亭種員作

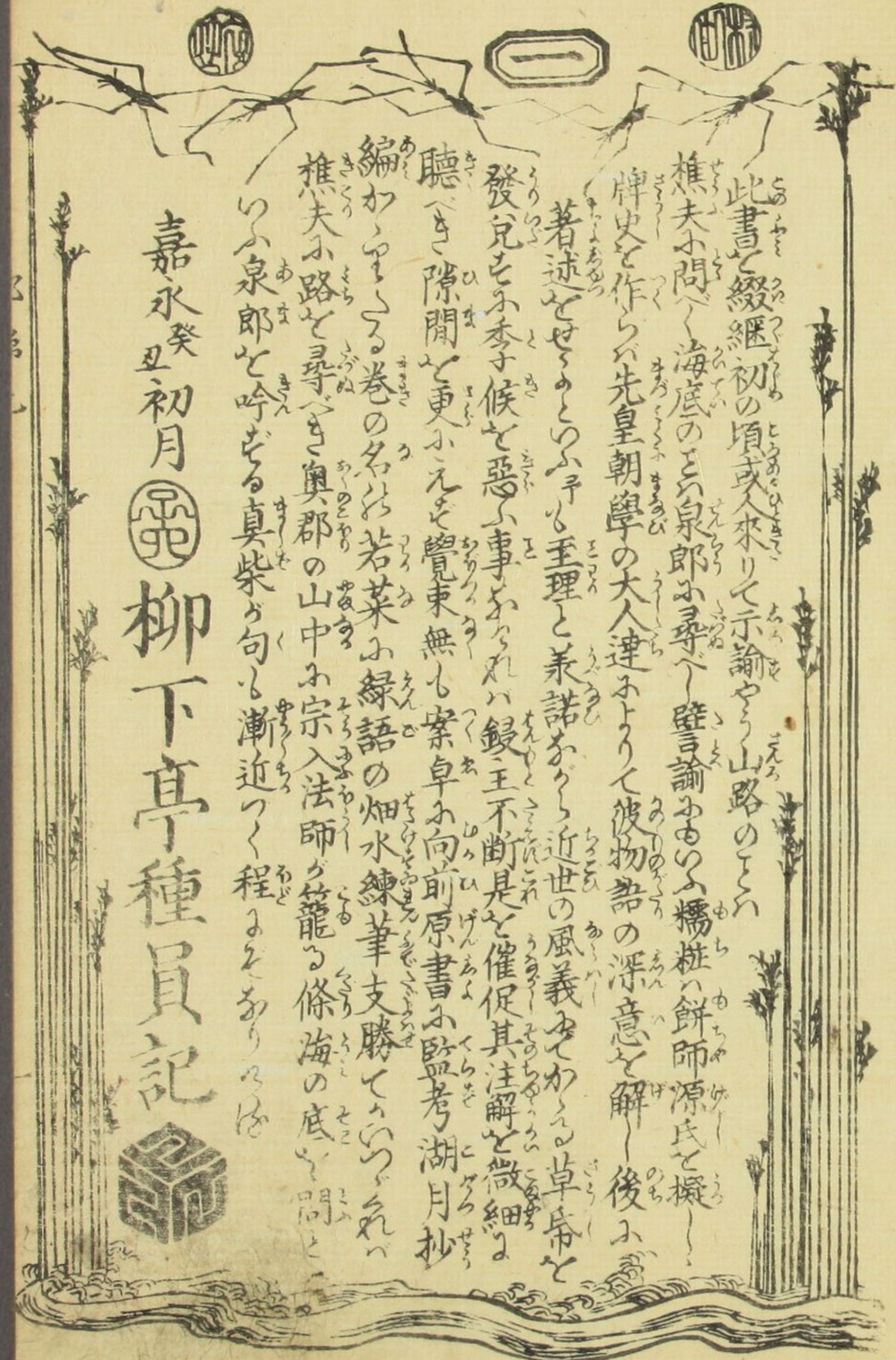
奔蝶樓國貞画

笑善家版



此書と綴纏初の頃或人來りて示諭やう山路のてい
 樵夫小問へ海底のてい泉郎小尋へ譬諭おもひ橋柱の餅師源氏と擬
 牌史と作らば先皇朝學の大人達よりて彼物語の深意を解後小
 著述とせりゆのてい乎も至理と兼諾をく近世の風義をわゆる草席と
 發見を小季候と惡ふ事なれハ銀王不斷是を催促其注解を微細
 聴へき隙間と更小えと覽東無も案卓小向前原書小監考湖月抄
 編わらうる巻の名は若菜小縁語の畑水練筆支勝ていのてい
 樵夫小路と尋へき奥郡の山中小宗入法師が籠る條海の底を問と
 の泉郎と吟むる真柴と句も漸近のてい程よとありてい

嘉永癸丑初月 柳下亭種員記





若菜上

権中納言

萬三郎

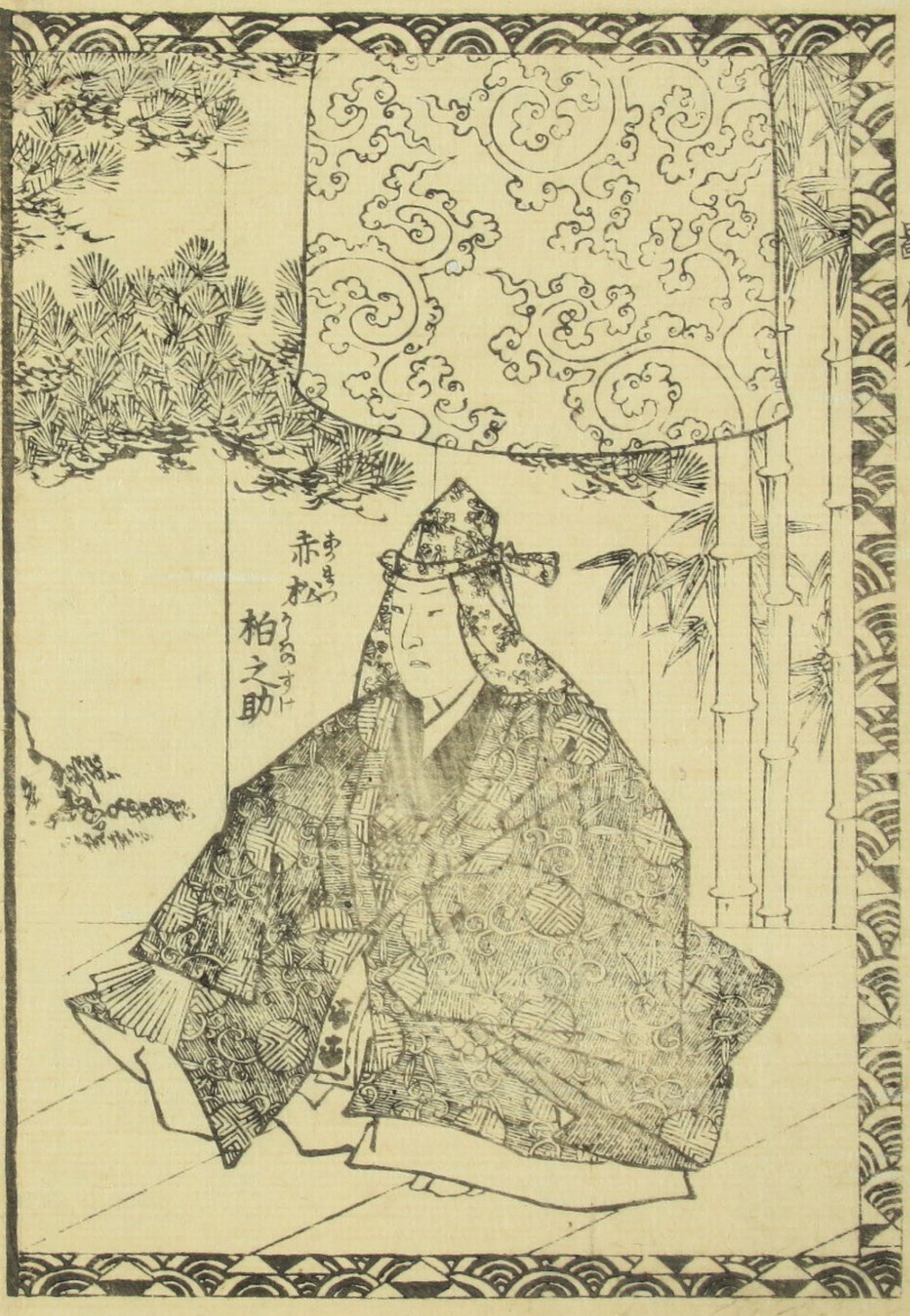
あつてのあかぬ

やのふまひて

くものあつてのあかぬ
雲井照氏仲

曲名同也

下巻七



番儀九

赤松

柏之助

Copyright © 2000 by the National Institute of Cultural Properties, Tokyo



あひのそふもよつて
ひまふえとま
そのよらわ
あままけい
まてつと

あひのそふもよつて
ひまふえとま
そのよらわ
あままけい
まてつと

あひのそふもよつて
ひまふえとま
そのよらわ
あままけい
まてつと



あひのそふもよつて
ひまふえとま
そのよらわ
あままけい
まてつと

あひのそふもよつて
ひまふえとま
そのよらわ
あままけい
まてつと

あひのそふもよつて
ひまふえとま
そのよらわ
あままけい
まてつと



玉壺生肌膏 一貝料北六乳
やけとまじりませ一四の膏あり
かとの毛をけするゆへに毛をよそ
金瘡 奇功糸一枚料北六乳
即愈 うちまじりませの膏ゆへに毛をよそ
くやくふされたるゆへに毛をよそ
※外功績多く包糸あり



種員作

製菓所新吉原 玉樓
取次所 真土山 柳下亭

國貞画

同行
石所

滑稽富士詣

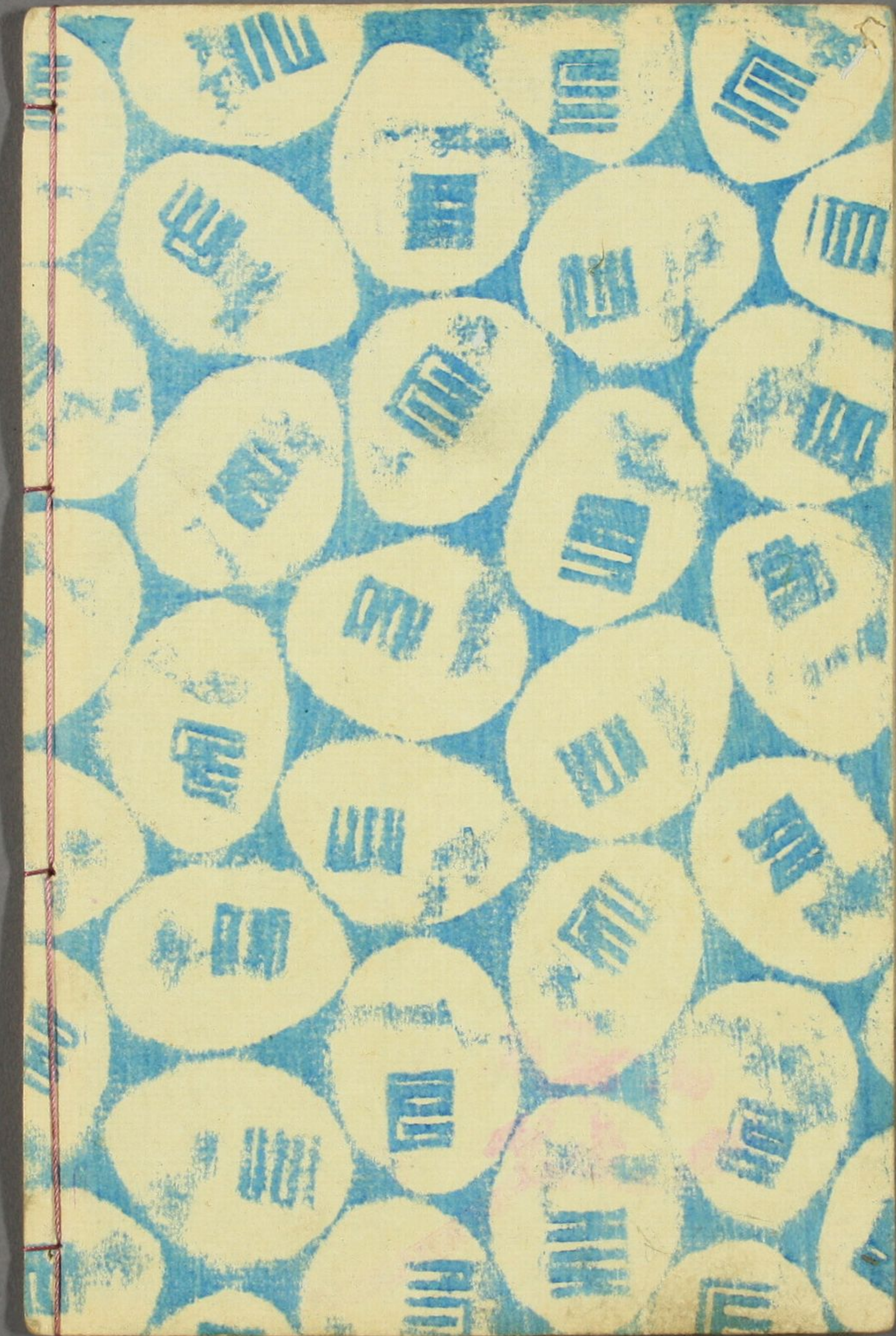
増入中本 假名垣魯文戯作
母場二番
端大尾 孟齋芳虎狂画

富士山開闢の御縁年々富士山に女人の登山許りたること
滑雪の趣向 同行の老若男女士農工商藝人遊客中川街道に會々
かや直走り下山 帰路に東海小促十途中箱根七箇の温泉場遊り
道行宮大山詣後廣見物巻島の廓に西落はばり 東都帰着
馬の結り巻中毎編雅俗の混りたる名流の流行り言の
記評 著者丹精一回々々脚色筆談 腹をかゆむるに
實地をこころ 編毎ふりまき東都雷名の通客等々狂文小筆と揮ひ
編 巻不殘出版仕仕の間求むる流の御身帯の板元錦昇堂伏見

地本繪首紙問屋

照降町

笑壽屋庄七棟



郡 保

種 貞 作

曲 貞 画

九 編 下



Handwritten text in the top left corner of the right page, including the characters '山' (mountain) and '水' (water).



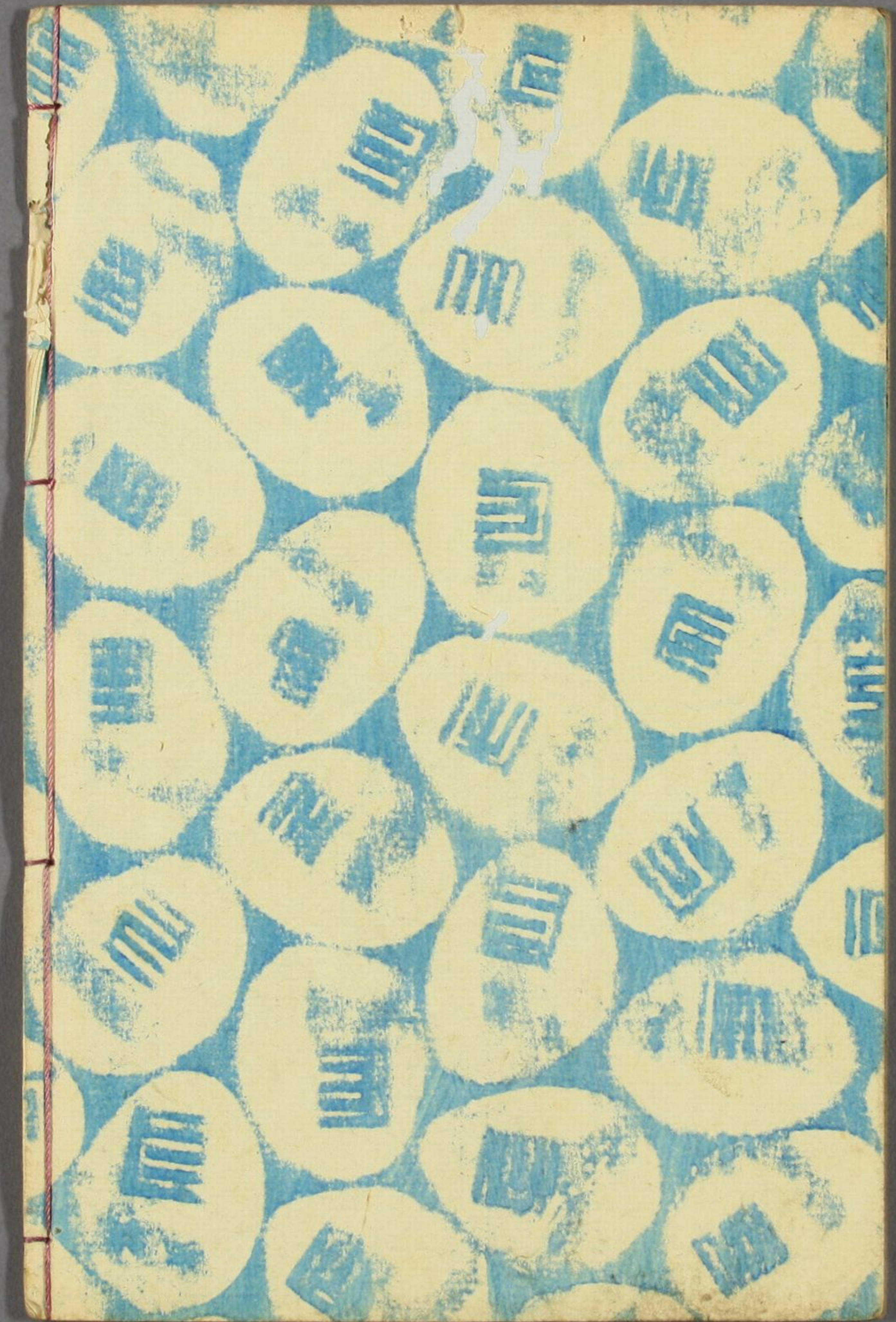
Handwritten text in the bottom right corner of the right page, continuing the narrative or commentary.



Handwritten text in the top left and middle sections of the left page, including the characters '山' (mountain) and '水' (water).

Handwritten text in the bottom right corner of the left page, continuing the narrative or commentary.







五合後乃鄧里遊

第九卷

種真化

國真通

餘昇堂

